

# 読者の声を受けて

NIPPOでは、CSR活動を推進するにあたり、ステークホルダーの声を重視しています。その一環として、CSRレポートのアンケートへのご協力をお願いしています。

2011年は725件ものご回答をいただきました。今年度は、いただいたご意見のいくつかについて、NIPPOの活動や考えをお伝えします。

**Q** 自然災害の被害が甚大になる中、NIPPOは災害対策においてどのような役割を果たせるのでしょうか。

**A** 東日本大震災など自然災害が猛威をふるう中、NIPPOでは事業を通じて安心・安全な技術を提供し、人と環境にやさしく、自然災害にも強いまちづくりに貢献することが自社の役割だと考えています。

ホームページには「環境に優しく、災害に強い道づくり・まちづくり」を掲載しているほか、2012年度レポートでは「災害に強いまちづくり」に対してNIPPOがどのような貢献をできるかについて、特集ページ(P.7-8)にまとめています。

**Q** バックホウの後退禁止というルールはあるが、事故を減らすためにもっと具体的な対策を講じた方がよいのではないか。バックホウの後退禁止は徹底すべきですが、誘導訓練や死角体験教育も今後徹底すべき項目ではないでしょうか。

**A** 後退禁止のルールを徹底すると同時に、現場では「作業範囲内の立入禁止」および「監視員による立入禁止内への侵入者の監視」といった対策を行っています。  
また、ご指摘の誘導訓練教育・死角体験教育は、定期的に各事業所で実施しています。今後も、バックホウによる事故撲滅のための対策に力を入れていきます。



**Q** 復旧支援や地域とのコミュニケーションなど「社会とのコミュニケーション」ページの内容はもっと詳しく知りたいです。

**A** 舗装工事や建築工事の現場および合材工場その他の事業所では地域とのコミュニケーションを特に大切なことと位置付けています。  
2012年度レポートでは、東日本大震災の復旧工事におけるNIPPOの貢献や、今後の復興に寄り添うための「災害に強いまちづくりに貢献」を特集ページに(P.7-8)にまとめました。

**Q** フィニッシャー機械作業における安全対策はどうなっていますか。

**A** 過去に発生したアスファルトフィニッシャーによる事故事例と安全対策をまとめた文書をイントラネットに掲載して、従業員に安全対策の周知を図っています。  
また、毎日の危険予知ミーティングで注意喚起をするとともに、「安全作業4つの誓い」を唱和するなど、安全教育を徹底し、全社一丸となって災害ゼロに取り組んでいます。

**Q** 「NIPPOの事業」のイラストが大変分かりやすかった。このような形のものを、ホームページなどを通じて社会へ発信していけばよいと思う。

**A** NIPPOホームページでは、自社の事業や技術情報を随時発信しております。  
このホームページの内容は逐次リニューアルしており、今後も皆さまにとって分かりやすい情報発信ができるよう心がけていきます。

「事業分野の紹介」ページ  
<http://www.nippo-c.co.jp/ourbuiss/index.html>  
「製品・技術のご案内」ページ  
[http://www.nippo-c.co.jp/tech\\_info/index.html](http://www.nippo-c.co.jp/tech_info/index.html)

**Q** ODA事業について新興国への貢献という位置付けでもっと積極的にアピールしてもよいのではないのでしょうか。

**A** NIPPOでは、これまで培ってきた技術力を活かし、新興国での道路整備事業など社会インフラ整備に貢献しています。近年ではケニアなど3カ国でのODA事業に参加しました。  
CSRレポートでも本年度から「NIPPOの事業」ページで海外事業の紹介を始めています。今後は、ODA事業をはじめとする海外での施工状況についても情報開示を進めていきます。  
(ホームページ「メディアクリップ」2011.9.20「ナイロビ西部環状道路建設事業」掲載)



**Q** 大規模地震が危惧される中、HRB工法の開発は素晴らしいと思っています。早く公共事業等に採用されることを願っています。

**A** 大規模地震時に路面の段差発生を抑制する「HRB工法」は、地震直後でも緊急車両の通行が可能で、人命救助や物資運搬が急務な初動を迅速に行えるNIPPO独自の工法です。  
より安心・安全な道づくりに貢献するため、提案していきたいと考えています。

**Q** 主要な工事についてもっと紙面に出了た方がよいのではないかと

**A** CSRレポートでは、新しく開発した環境技術や自社での活動に焦点を当てて情報開示しているため、主要な工事に関する記載が少なくなっています。  
ご意見を受けて今後のレポート制作の参考とさせていただきます。ありがとうございます。

**Q** パーフェクトクール・レールの使い方について、もっと詳しく知りたい。例えば、どのようなところで活用されているのでしょうか。

**A** 夏期における鉄道レール温度の上昇を抑制する「パーフェクトクール・レール」は、レールの張り出しやポイント故障が懸念される箇所などでご活用いただいています。  
写真は試験施工としてまっすぐな線路にて施工した際の写真ですが、手前側の白いレールがパーフェクトクール・レール部分です。

